

HUGコミ

第17号

2012年3月

こどもパートナーズ (東村山市秋津町) / FAX:042-397-1024 / E-Mail hug-partners@jcom.home.ne.jp / URL http://

HUGこどもパートナーズの活動紹介・その16

3.11 ここからプロジェクト

ここ東村山から、またそれぞれの場所から子どもたちの生きる未来を考えよう

略して「ここP」



東日本大震災のあと、原発や放射能に関して「みんなで語り合う場がほしい」というママたちの声を受けて、HUGのプロジェクトとして生まれました。興味のある人が自由に参加でき、同じように不安を抱えるママ同士や関心の高い人たちがつながる場でもあります。

主に原発や放射能、エネルギー問題についておしゃべりをしたり、情報交換を行っています。災地や避難している方々に「なにかしたい」という声もあがりました。

これまで、勉強会や講演会などの企画を実行委員会形式で実現してきました(詳しくは中を見てください)。

正しい情報を得ること、そして、不安な気持ちを吐き出して語り合うことが大切だと感じています。

興味のある方は遊びに来ててください。もちろん子連れでもどうぞ！
問い合わせ：080-3385-2148(入声)

〈震災後のHUGの取り組み〉

3月「子育てひろば全国連絡協議会」の義援金集めをスタートし、5月に合計143,472円をひろば全協を通して、被災地の子育て支援団体等に送らせていただきました。子ども・子育てのことに使われるようにと、限定した形での義援金に賛同して下さった方も多くあ

- 3月12~28日 ひろば閉鎖
- 3月 「子育てひろば全国連絡協議会」による義援金集めをスタート
- 3月30日 HUGサロントコトコおよび「トコトコ通信」印刷を中央公民館で開催
- 4月1日 仙台へ救援物資を送付
- 4月27日 石巻の高校生へ文具の救援物資収集
- 6月10日 「3.11ここからプロジェクト」発足
- 7月9・23日 パパとママのための防災講座①②

りました。

また、ひろば利用者のママの仙台に住むお友達からの「洗濯ができず着るものがなく困っている」という声に救援物資を集めました。たった二日間の呼びかけに、子ども用品、衣料品など多くの物資が集まり、離乳食を買い足して仕分けし、色紙を添えて、4月1日、仙台に救援物資31箱を送りました。「何か」させてもらったことに感謝の気持ちでいっぱいでした。4月末には会員のお友達から石巻の高校生が学用品がなくて勉強できずに困っているとの声に、支援物資を集めました。

奇しくも3月開催予定だった防災講座は、7月に2回の連続講座で開催。防災アドバイザーあんどうりす氏による進行で、目からウロコの防災の知識はもとより、3.11のそれぞれの体験を語り防災の観点から地域を考える機会にもなりました。たくさんのパパたちの参加があったのが嬉しかったです。

“ころころの森”の指定管理者になりました ～HUGは「ファミリー・サポート・センター」の運営を担います～

H24年度より、東村山市子育て総合支援センターころころの森の指定管理を受け、「NPO 法人東村山市子育てネットワークすずめ」と「HUG」がグループで運営をすることになりました。

今までは、白梅学園大学が委託運営していましたが、H24年度から5年間は「東村山市子どもNPOユニット」が運営を担います。

また、これまで市が直営で行っていたファミリー・サポート事業もころころの森に一体化されることとなり、主に「子育てひろば」の運営をすずめが、「ファミリー・サポート・センター」の運営をHUGが担当することになりました。

私たちにとっては大変革の年となります。

ファミリー・サポート事業をスムーズに引き継ぐと共に、民間ならではの良さを活かしたファミサポにしたいと思っています。ひろばでの預かりも増えるでしょうし、別枠の保育サービスを立ち上げ、人材の活用なども考えています。

新しいことにチャレンジし、東村山が子育てしやすいまちとなるようがんばりたいと思います。みなさま、どうぞ応援してください。

NPO法人HUGこどもパートナーズ
代表 磯部 妙



4月から変更があるサロンです。お気をつけください！

子育て広場 ハトの家

- ◆毎月第1/3月曜日 10:00～12:00
- ◆ハトホーム 1F和室 (富士見町2-7-5)
- 協力:老人福祉施設ハトホーム
- ※連絡先 042-393-7574 (ハトホーム 遠山・長澤)

月曜日に
変わりました!
気をつけて来てね。

ぶくぶく外遊びサロンのほら

- ◆毎週金曜日(3～5月・9～11月のみ) 10:00～11:30
- ◆集合:たいけんの里駐車場
- ◆対象:2歳以上のお子さん
- ◆持ち物:水分・タオル・着替え
- ※雨の場合はありません。
- ※駐車場はありません。

天候(雨天、強風)や当日の朝の放射線量により中止することがあります。ぶくぶくのブログを見るか電話でお問い合わせください。

しっかり歩けるようになったお子さん対象です。

雑記報 ■約1年ぶりの発行となり、不安と憤りのなか、これまでとは確実に違う月日。「何か」しなくては、でも「何を」すればいいのか：問われ続けています。

■2011年3月11日、東村山でも初めて経験する大きく長い揺れ。その後わかつてきた東北の状況。さらに福島第一原発の事故！余震も続き、特に乳幼児を抱える母親たちの不安やストレスは大変なものだと想像できましたが、市内のひろばは閉鎖し、集まりは次々に中止に。町で会ったママが私たちがスタッフの顔を見て涙を流すこともありました。人とつながりあい、不安や孤独育児の予防のためあるひろばが、こんな時に閉鎖：無力感にいたたまれない気持ちでした。子育て支援施設の災害時のあり方を考えていきたいと思います。■ママたちの声を受けて発足した「ここP」は、思いが募り1年間走り続けてきました。4月からはもう少しゆとりと、でもそれぞれの思いと向き合った活動を続けていきたいと思います。■雑記報『月刊福祉』全社協の取材を受け、3月号にHUGが紹介されました。団体の成り立ち、活動への思いなどがわかりやすく掲載されています。読みたい方はスタッフまで。■4月から新しい事業の指定管理者となりました。利用者や地域の皆様の信頼を得られるよう一歩ずつ、地道に積み重ねていきたいと思います。■のぐちちよう子育てひろば「ぶくぶく」をはじめ、そのほかのサロンも引き続き継続しています。いつでも遊びに来てください。■会員になりたい、ちよっとお手伝いしてみたい、来年度もいろいろな方の参加を待っています！

ここP 2011年度の活動報告

ほぼ月1回の情報交換会&おしゃべり会の他、以下の活動を行いました。

「ここP」の原動力となった3人のママより メッセージをいただきました！

それぞれの「ここ」で、元気ががんばっていきましょう！

3.11の震災で被害を受けた方々のことを思うと、失われたものはあまりにも大きく、やりきれない気持ちになります。そして、放射能の問題はいつまで続くのか不安も消えません。

私自身は、震災後、いちばん心配だったのが放射能のことでした。でも、そんな中、友人を通じて、「ここからプロジェクト」や「アナグマの会」など情報交換や勉強する場に参加できたことが本当にありがたく、心の支えのひとつとなりました。

震災前は原発のことを考えたことがなかったのですが、震災後、便利な生活の裏側に、今回のような事故の危険をはらんでいたことや、今まで経済の発展のために多くの環境破壊が行われてきたことに改めて気付かされました。

今後、このような原発事故が二度と起こらないように、子どもたちの未来や地球環境にとってよりよい方向へ進んでほしいと願います。

自分自身も生活全般を見直すきっかけとなったので、これからも「知る」ことを怠らず、世の中にあふれる情報の中から自分に大切なものを選ぶ力をつけ、行動につなげたいと思っています。(N.M)

この1年、放射能から子どもを守ることや脱原発の活動を通して多くの出会いがありました。誰に言われた訳でもなく見返りがある訳でもないのに、それぞれの使命感から心血を注ぎこんだ活動をしていました。原発事故後、おそらくこのような活動が日本中で無数に行われています。

そしてこの姿は今に始まったことではないのだと気付きました。当たり前のように享受している私たちの日常は、“みんなが幸せであるように”という、多数の見えない誰かの努力の積み重ねによって成り立っているのだと、今ひしひしと感じます。

どっぷりと地域の中に腰を据え子育てをし始めて4年。この頃やっと“大人”とは何かが分かり、その入り口に立てたように思います。

これからどのような世界を子どもたちに残すのか？ 臆せず行動して作り上げていこう！というのが、HUGの大人たちから私が学んだことです。

私も後に続けるように励んでいきたいと思いません。ありがとうございました。(H.K)

※H.Kさんは、3月に転居されます。

3.11の震災後、主人が実家にあったガイガーカウンターを借りて、放射線量の測定をしたことが、私にとってこの問題と向き合うきっかけとなりました。目の前で測定される線量計の数字と報道されていることとの違いに日々疑問を感じ、混乱し、何が正しいのか、何を信じるべきなのか、本当に迷い、考え、ここまで来ました。

自分にできることは何か…と考えていた時に、HUGの方と連絡を取ったことから「3.11 ここからプロジェクト」の立ち上げに関わることになりました。

その中で、小さな子どもをもつお母さん達の輪が広がり、秋には「アナグマの会」をサークル活動として発足しました。月1回の活動は、エネルギー問題や放射能汚染についての情報交換と交流が中心になっています。この春、柳泉園で瓦礫処理をする動きを受けて、会のメンバーで放射線量を測定する計画があり、協力しながら、身近な問題について皆で考えていこうとしています。

この1年間、いろいろなことがありましたが、3.11は、社会の様々な問題に気付く糸口でもあったと思います。これからどう生きていくか、一人一人が考え、模索していくことが大切なのでしょう。そして、その中で大切なのはバランス感覚と意識ではないでしょうか。自然と人間、人と人との関係、自分の心と体。様々なバランスをとって、これからの社会をつくる一員としての意識をもち、子ども達と一緒に成長していきたいと思えます。

長男を妊娠中に東村山に引っ越してきて、丸5年。すっかり居心地のいい場所となった土地を離れるのは、本当に寂しいです。けれども、ここで得たものを財産として、新しい土地での生活をスタートしようと思えます。お世話になったたくさんの方々、本当にありがとうございました！そして、これからもつながっていけたら、嬉しい限りです。(F.O)

※F.Oさんは、3月に転居されます。

「原発を知ろう！勉強会」第1弾 7月15日(金) 社会福祉協議会ホール ぶんぶん通信 no1 上映会&おしゃべり会

映画「ミツバチの羽音と地球の回転」のビデオレター上映会に、おとな35名と子どもたちが集まり、みんなでわいわい観ました。

観たり聞いたりするだけでなく、その後、思いを語り合ったり共有したりすること、ここPが大事にしていることです。

母親同士、いろいろな意見を否定せずに話し合っていきたい。分断しないでやってほしいな

こわいと思いがら見ないふりをして生活してきたなと思って参加しました



「原発を知ろう！勉強会」第2弾 9月12日(月) いきいきプラザ地域活動室 インタビューDVDと一緒に観よう&おしゃべり会

河田昌東(かわだまさはる=チェルノブイリの救援活動、農業復興の「菜の花プロジェクト」)さんへのインタビュー。技術やデータにもとづいての放射能の人体への影響や、チェルノブイリでの活動の様子が伝わるもので、これからの日本についてぜひ知っておきたい内容でした。

関心がある人とならない人の温度差が激しく、自分の気持ちを話せる場がなかった



放射能について知識がなく、子どもを外に出していた。正確な情報を知ることが大切だと思いました

「原発を知ろう！勉強会」第3弾 10月8日(土) 市民センター 山田真さん講演会「子どもの健康と放射能」

八王子中央診療所所長で、子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク代表の山田さんをお迎えして、今福島で起きていること、放射能と健康問題についてうかがいました。福島の子供たちを診察し、そこから見てきたこと……山田さんの言葉に、私たちひとりひとりが考え、判断していかねばならないことが伝わってきました。120名もの参加があり、関心の高さを感じました。

この講演会でうかがった内容と同じものが入っているブックレットが発売されています。放射能汚染の詳しい地図も入ってるよ



(わが子からはじまるクレヨンハウス・ブックレット004)
「小児科医が診た放射能と子どもたち」
山田真/著
クレヨンハウス 525円(税込)

※当日の動画は、こちらで見られます↓
<http://www.ustream.tv/recorded/17744818>

♡「ここP」の活動は、2012年度も続けていきます。
おしゃべりし合い、つながり合うことを中心に、ゆっくりと活動していきます。